

チャレンジレポート 2020企画資料



1. 昨年の課題
2. 今後の方向性
3. コンパクト化の提案
4. テーマ参考



1. 昨年度までの課題

関係企業の数

研修に参加された企業が多く、最終的なグループの意思統一、企画のコントロールに多くの時間を要した。

グループ分け

グループ分けに際し、業種の違いでうまくまとめられない。村度的に一見関係のないグループに入ってもらわざるを得なかった。

スケジュール調整

予定合わせが難しく、企画ボリュームにかかる期間から、実地授業を「師走」に設定しなければいけなかった。

参加企業への満足度

各参加企業へ還元するベネフィット（自社課題の解決・社員教育）の度合いが様々で、全ての参加企業に対して満足していただくことが難しい。

参加企業への満足度

研修やワークショップ以外でのカウンセリングが案外重要だと感じたが、3グループ分のケアは難度が高かった。

商品開発スキームの時期

3月に事業完了とした場合、12月授業では、広報制作・プレスリリースも含めた開発スキームが取りにくい？

→ 健全運営・意思決定を円滑にするためプロジェクトをコンパクトにすべき



2.今後の方向性所感（現体制での）

- 商品開発の達成率を高める
- KPIを
- 運営に余裕を持たせ、純度の高い実地授業を目指す
- 広報活動にリソースを追加、イノポの知名度を上げていく



3.コンパクト化の提案

既存商品の応用・改良をテーマに

大人でも一見解決できないお題を小学生に託すのもリスクが高い。

既存商品のバリエーションや、デザイン性の課題など、答えが複数あるものをテーマにしてみる。

参加企業へのメリットや報酬があれば...

将来的には積極的に参加される魅力的なプロジェクトにして、ひいてはイノポのネームバリューを上げたい。「やりがい搾取」にならないように、広報レベルを高めるか、協賛やクラウドファンディングなどで報酬制も取り入れて、参加者へのメリットを担保してはどうか。

1社 or 1グループ制

参加企業は1社による選定、もしくは有志によるイノポ会員のワンチームで1つのアイデアを生み出していく。要するに1グループでプロジェクトを進め、1つのテーマに意見を注力させる

オンラインでの意見交換を積極的に

各事業者の方々にとって、定期MTGへの参加が多いと負担になる印象があった。ブラッシュアップだけであればオンラインで完結させ、然るべきMTGで議題を活性化させたり工夫したいところ。

小規模でも継続性があるって結果を出しやすい体制にしたい



4.テーマ参考

- ◎ イノポでおもちゃ開発 <https://note.com/simpeiidea/n/nb0f2ef775107>
- ◎ TABI LABO <https://tabi-labo.com/279339/littlebigidea>
- ◎ littleBigidea <https://www.littlebigidea.com.au/>
- ◎ こどもまなびラボ <https://kodomo-manabi-labo.net/kodomo-shokupan-01>